

シンポジウム ゼロエミッション建築の最前線

0 . シンポジウム開催の趣旨

先進各国は、人為的に発生する温室効果ガスによる気温上昇が、産業化以前に比べて2 を超えないようにすべきであるとの認識から、2050 年までに 1990 年頃に比べて80%以上の温室効果ガス削減を目指しています。我が国の環境省も「温室効果ガス削減目標を実現するための中長期ロードマップ」を策定中であり、この最新の報告では、2015 年より温室効果ガス排出をネットでゼロにするゼロエミッション住宅の普及を開始し、2030 年以後は全ての新築建築及び新築住宅をゼロエミッション化することになっています。そして2050 年には建築、住宅ともストックを含めて全てゼロエミッション化することとしています。

ゼロエミッション住宅の普及開始まであと4年と迫っており、社会全体が普及に向けて準備を始めるべき時期です。また、2050年にストックを含めて全てゼロエミッション化するということは、100年以上の建築寿命を目指す我が国では、今日作る建築は全て改装によりゼロエミッション化できる骨格を持たなくてはなりません。従って、今日の建築活動は全てゼロエミッションを前提に行われるべきなのです。しかし一般の人にとってゼロエミッション建築は夢の世界のこのように思えますし、建築業界関係者の間ですら状況が認識されていません。

一方ヨーロッパの国々では、既にゼロ空調建築が可能なレベルの住宅の断熱性能を義務化している国もあり、今後数年の内にヨーロッパ全体が同様の傾向を強めるものと予想されます。先行事例では、建築で消費するエネルギーよりも生みだすエネルギーが多いプラスエナジー住宅や、それらを組み合わせた街区も実用に付されており、ゼロエミッションは夢ではありません。

また、ゼロエミッション建築は、とても快適な住環境が実現でき、健康促進の点でも有効である事が分かっています。昨今のエネルギー事情を考慮すると、遠からずコスト的にも優位であることが明確になると予想されますし、ドイツやスイスでは、建築の省エネ化などの対策が、経済政策的にも効果的であることが明らかになりつつあります。

このような状況の中で、日本においても様々なグループが建築の高度な省エネ化やゼロエミッションを目指して活動し、問題を乗り越えながら成果を上げつつあります。技術や人材、企業の意欲、建設業界の潜在的な実力などの点からすれば、日本は建築のゼロエミッション実現に最も近い国の一つです。しかし、社会的な気運の盛り上がりや欠け、実施に向けた制度整備の不在など、本格的な取り組みに向けて障害があります。

また、先進事例に取り組むグループ間でも、ゼロエミッションの概念や目標が共有されている訳ではありません。

本シンポジウムでは、中小工務店、工業化住宅、一般建築の各分野で先行して課題に取り組む方々に現状報告をしていただき、会場を含めた議論を通して目標を共有すると共に、共通する課題解決に向けた行動の契機にしたいと思います。また、一般の方々に対しては、ゼロエミッションが避けて通れないものであると同時に、既に手が届く存在であること、ゼロエミッションを実現するための技術は、環境への負荷を低減し維持費を節約できるだけでなく、快適性が高く健康的な生活環境を実現できる技術でもある事を知っていただく機会にしたいと考えています。

会場は日本で最初にエコ改修を行った埼玉県立浦和高校の麗和会館をお借りして開催します。本シンポジウム当日の午前には、高校生や一般の方を対象としたシンポジウムを併催します。ここではゼロエミッション建築の入門編とも言える浦和高校のエコ改修について浦和高校の生徒や設計者が報告すると共に、最新のエコ住宅の状況や環境の時代に向けて切迫した社会情勢、今すぐ買えるゼロエミッション住宅など、身近なエコ建築について専門家が分かりやすく解説します。

開催日

2011年11月3日(木) 13:30 ~

対象は住宅や環境問題に関心がある一般の方及び専門家です。

また、高校生及び一般の方を対象とした関連シンポジウムを同じ会場で午前中に開催します。10:00~

1. 場所

埼玉県立浦和高校 麗和会館

〒330-9330 さいたま市浦和区領家5-3-3

アクセス; JR京浜東北線北浦和駅東口より徒歩10分

北浦和は新宿・東京よりJRなどで概ね30~45分です。

地図: <http://www.urawa-h.spec.ed.jp/yokogao/access.htm>

3. 講演 及び パネルディスカッション

基調講演: 中村勉 (工学院大学教授 / 日本建築学会低炭素社会特別委員会代表、
JIA環境行動ラボ代表、中村勉総合計画事務所所長)

「急ごう! 原発を凌ぐゼロカーボン社会を」

日本の代表的な建築関係団体の環境行動のリーダーを務められ、環境省の「温室効果ガス削減目標を実現するための中長期ロードマップ」策定委員でもある中村勉教授から、環境行政の動向や日本の進むべき道、建築関係者に期待することなどについてご講演いただきます。

講演: 村上敦 (環境ジャーナリスト / フライブルク在住)

「ドイツを中心としたヨーロッパの超省エネ建築の動向報告と日本への提言」
ドイツを中心とするヨーロッパの最新情報を、環境都市フライブルクから発信して日本を刺激し続ける環境ジャーナリストの村上敦氏から、最新情報と日本への提言についてご講演いただきます。

パネルディスカッション

- ・ 太田 勇 (株式会社ミサワホーム総合研究所 環境エネルギー研究室長)
- ・ 熊野 直人 (清水建設株式会社 環境・技術ソリューション本部 主査)
- ・ 早田 宏徳 (日本エネルギーパス協会代表理事 / マグロブクリエイション代表)
- ・ 配島 一弘 (ハイシマ工業株式会社代表取締役)

埼玉の地元に根付く建設会社としてパッシブハウス基準の住宅を実現。
技術報告を京都工芸繊維大学大学院 准教授 芝池英樹氏が行います。

- ・ マテー・ペーター (自然のすまい株式会社代表取締役)

建築生物学の考えに従ったヨーロッパ基準の超高断熱住宅を日本で建設し続ける施工者。

講演者の中村勉教授、村上敦氏も参加します。

ファシリテーター：白江 龍三(環境建築家、前橋工科大学大学院非常勤講師)
超省エネ化に向けた建築激動期を前に、日本の建築界の各分野(在来住宅、工業化住宅、一般建築)で先導的な活動をされている方々にお集まりいただき、緊急の課題や日本のあるべき姿について議論していただきます。

閉会 17:30

4. 高校生及び一般の方を対象とした関連イベント(午前の部)

(開場:9:45 開会10:00~)会場は午後の部と同じ埼玉県立浦和高校麗和会館です。

パネルディスカッション 浦和高校のエコ改修の考え方と現状報告

- ・梶 芳晴(梶芳晴建築設計研究所)浦和高校エコ改修の設計者
 - ・浦和高校在学学生 エコ改修後の使い心地、住み心地、計測データなどの報告
- ファシリテーター：八代克彦(ものづくり大学教授)

設計者の梶氏がエコ改修の考え方を説明した後、エコ改修やエコ社会の未来について会場も含めて皆で議論します。

環境問題に関心がある高校生全員集合！皆で語り合おう

講演：早田宏徳(日本エネルギーパス協会代表理事/マングローブクリエイション代表)

“省エネ住宅伝道師”とも言うべき活動をしている早田宏徳氏が、高校生やこれから住宅を建てようとする一般の人に向けて、住宅をゼロエミッション化する時に何が大切か、なぜ今高断熱住宅が重要なのか、どんなメリットがあるか、国際情勢の中でどういう意味を持つのかなど分かりやすく説明します。

これから家を建てようとする人必見です！

講演：太田勇(株式会社ミサワホーム総合研究所 環境エネルギー研究室長)

「ミサワホームのライフサイクルCO₂ マイナス住宅 ~ゼロエミッションの先を見据えて~」 今直ぐ買えるゼロエミッション住宅の事例として、ゼロエミッションを超える性能を誇る最新の LCCO₂ マイナス住宅と今後のゼロエミッション住宅の展望について、高校生や一般の人に分かりやすく紹介します。

5. 主催等

主催：日本建築学会埼玉支所

協賛：株式会社ミサワホーム総合研究所

後援：環境省関東地方環境事務所、埼玉県

(申請中)国土交通省、経済産業省資源エネルギー庁、日本建築家協会

6 . 参加・申し込み

参加費 無料

申し込み メール又はFAXによる事前申し込み
又は電話による申し込み

Mail s_gakkai@zpost.plala.or.jp

FAX 048-861-2384 TEL 048-866-8257

宛先 : 日本建築学会埼玉支所 事務局